

上野東照宮節分祭で黒福豆まき(2月3日)



江戸幕府への黒豆献上を160年ぶりに復活させた黒豆奉納実行委員会【(株)小田垣商店、フジッコ(株)など】。節分の日には、上野東照宮でTBSテレビの宇賀神メグアナウンサーが「黒」福豆まきを行いました。その後、黒豆つかみゲームも行われ、多くの人でにぎわいました。

豆をまいて鬼退治(2月2日)



2月3日の節分を前に今田幼稚園で豆まきが行われました。園児たちは金棒を持った赤鬼や青鬼が登場すると、「鬼はそと、福はうち」と言いながら、元気よく豆を投げていました。鬼に驚いて泣きだす園児もいましたが、元気いっぱい鬼を退治していました。

野生鳥獣研究所「けものら」開所(2月3日)



遠方地区で野生鳥獣研究所「けものら」がオープン。「野生動物とどう向き合っていくか」をテーマに、獣医師で地域おこし協力隊の金山俊作さんが立ち上げられました。今後同施設では野生動物セミナーなどを開催される予定です。

高校球児が小中学生と合同練習(2月3日)



小中学生と高校生と一緒に野球を練習する取り組みが篠山中学校で行われました。これは野球の普及をめざし、日本高校野球連盟が取り組む「高校野球200年構想」に基づく活動。この日は、高校生が打撃や守備などについて身ぶり手ぶりを交えながら指導しました。

農都のめぐみ米食育授業(2月7日)



城南小学校5年生が、給食の時間に「農都のめぐみ米」の食育授業を受講しました。児童らは、日頃給食で食べている農都のめぐみ米の生産農家から話を聞き、給食のお米が自然環境や生きものに配慮され、自分たちの身近な田んぼで作られていることを学びました。

ふくすみ雪花火(2月3日)



松森神社(西野々)でランタンや花火があがるイベント「ふくすみ雪花火」が開催されました。福住地区まちづくり協議会が主催し、関西国際大学や関西学院大学の大学生も協力。約50基のランタンが浮かび、福住の夜にあかりを灯しました。



新春駅伝大会 味間Aが大会5連覇(1月14日)

まちづくり地区対抗の「第21回丹波篠山市新春駅伝大会」が黒豆の館周辺コース(7区間・14.490km)で行われました。市内13地区から17チームが参加し、タスキをつなぎました。レースは、味間Aチームが1区で先頭に立つと、1度もトップを譲らず44分59秒で優勝。選手全員が区間賞を獲得する走りでも5連覇を達成しました。結果は次の通りです。優勝=味間A / 準優勝=大山 / 3位=今田A

ひょうご安全の日(1月17日)



阪神淡路大震災を風化させず、教訓を伝えるための防災学習が西紀北小学校で実施されました。地震体験車では震度2から7までの地震が体験でき、子どもたちは揺れの怖さに触れながら防災を学びました。

4年ぶり 八上地区人権・同和教育研究大会(1月21日)



講師に市人権・同和教育研究協議会の前会長である溝畑賢さんを迎え、人権意識や自尊心の育て方などをお話いただきました。併せて「あたたかいまちづくり八上をめざして」のテーマで募集した標語の表彰も行われました。

館山若潮マラソンへ選手派遣(1月15日)



市民ランナーとして館山若潮マラソンへの派遣が決まった、岡澤草好さんと田中規継さんへの激励会が行われました。両選手ともに、「タイムにはこだわらず、丹波篠山をPRし、楽しみながら走りたい」と笑顔で意気込みを話されました。

丹波篠山市がホッケータウンに(1月20日)



ホッケー競技の普及振興に実績がある自治体として、丹波篠山市が「公式ホッケータウン」に認定。総合スポーツセンターで認定証交付式が行われました。式典後はホッケー教室が開催され、子どもらが東京五輪に出場した選手たちとミニゲームを楽しみました。

車のセールスマンを経て、1975年から父のもとで焼き物を学び、49年間陶工に従事されてきた大西誠一さん。登り窯での焼成にこだわり、大中小3基の窯で、釉薬を一切使用せず、独特の渋みや素朴さを追及した作品づくりを取り組まれています。2013年には伝統工芸士に認定され、兵庫陶芸美術館と連携し、県内の小中学生に陶芸教室を行うなど、普及啓発にも尽力されている大西さん。「長年続けてきた功績が認められとてもうれしいです。今後、産地の活性化に寄与していきたい」とその喜びを話されました。



丹誠窯
 おおにし せいいち
 大西 誠一さん

経済産業大臣表彰

栄光輝く

長年の功績や日々の努力を褒め、
 栄光に輝いた皆さんをご紹介します

陶芸に向き合い42年を迎えた市野力さん。大学を卒業後、京都の陶工のもとに弟子入り。帰郷後は父親と一緒に作陶に携わり、人が使いやすいものを意識しながら、生活に密着した器を一つ一つ丁寧に作り続けられています。また、2017年から2年間、丹波立杭陶磁器協同組合理事長を務められ、地域団体商票の取得や、良質な陶土を安定供給するため坯土工場の改善にも取り組んでこられました。受賞を受けて、「今後も、新たな気持ちで作陶に取り組んでいきたい」と、熱い思いを話されました。



壺市
 いちの つとむ
 市野 力さん

経済産業大臣表彰
 兵庫県技能顕功賞

兵庫県技能顕功賞



陶幸窯
 いちの ひろし
 市野 浩さん

高校卒業後、祖父や父のもとで焼物を学ばれた市野浩さん。陶芸の仕事に携わり47年目を迎えます。日常食器を数多く生産し、代名詞ともいえるカラスの置物も制作されています。2月には、趣味の大工仕事を生かし、自宅裏に小さな工房を3棟建設し、陶芸教室「カラスの学校」を始められる市野さん。「これからも、さらに精進して作陶に励んでいきたい」と笑顔で話されました。



市野英一窯
 いちの ひでかず
 市野 英一さん

陶芸の仕事に携わり40年になる市野英一さん。大阪芸術大学で陶芸を学んだ後、1984年に開窯されました。最初は、壺や茶道具などを作られていましたが、現在は手作りの日常食器を中心に作られています。中でも、長年の経験に培われた技術で作陶された黒と白のプレートは、人気のある作品となっています。受賞には「今後も、良い作品をじっくりつくっていきたい」と抱負を語られました。

第2回

「丹波篠山国際博 日本の美しい農村、未来へ」推進市民委員会開催

問い合わせ 丹波篠山国際博担当 ☎558-8891

いよいよ、「丹波篠山国際博 日本の美しい農村、未来へ」の開催まで1年少しとなってきました。8月に設立総会を開催し、丹波篠山国際博実行委員会を中心に話し合いをしながら、事業を進めています。推進市民委員会では開催概要の説明や、万博協会・万博首長連合からお越しいただいて万博を契機にし

た地域活性、地域振興の取り組みについてお話しいただきます。つきましては、丹波篠山国際博に参加いただいている約180の団体に関係する方だけでなく、丹波篠山国際博に興味のある方も大歓迎ですので、ぜひご参加ください。

日時：3月17日(日) 13:30～15:00
 場所：四季の森生涯学習センター 西館 多目的ホール
 内容：開催概要説明 ほか

★丹波篠山を象徴する写真とロゴマーク入りのポスターが出来上がりました。必要な方は本庁、または各支所までお越しください。



令和6年度能登半島・支援情報

珠洲市などへ市の職員を派遣

緊急消防援助隊を派遣[輪島市など]

1月15日～20日、19日～25日、23日～28日、27日～2月1日に兵庫県大隊阪神ブロックとして消防士12人を派遣し、救急出動を支援しました。



家屋被害認定士を派遣[珠洲市]

1月28日～2月2日、6日～12日に、家屋の被害状況調査に従事するため、家屋被害認定士の資格をもつ5人を派遣しました



避難所運営支援として職員を派遣[珠洲市]

2月4日～9日に、避難所の運営などを支援するため、職員2人を派遣しました。



今後も、兵庫県と連携しながら、職員の派遣を継続します

義援金募金箱を設置中

設置場所 市役所1階ロビー(本庁舎・第2庁舎)、各支所、丹波篠山市民センター
 設置期間 3月29日(金)
 ※義援金は日本赤十字社へ送金します。

問い合わせ
 長寿福祉課 ☎552-5346



市営住宅を提供

市では、被災された方に対し、無償で市営住宅を3戸提供します。

問い合わせ
 地域計画課 ☎552-1118